

第4回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 25 年 3 月 27 日（水）

時間 午後 2 時から

場所 弥富市 図書館視聴覚室

○議 事

1. 開会

山崎議長	・ 定刻前であるが、皆さんお揃いなので始めたいと思う。 ・ 私は、本日の司会進行を務めさせていただき、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・ 平成24年度第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・ 今年度最後の協議会ということで、ご審議いただきたい議題が3つあるので、よろしくお願いします。
------	--

2. 弥富市長挨拶

山崎議長	・ 最初に、本協議会の会長である服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・ 大変、年度末のお忙しい中、昼からの出にくいところ、地域公共交通活性化協議会にご参集いただき、感謝する。 ・ 弥富市のPRを少しさせていただくと、年度が替わり、様々な行事がスタートする。 ・ 最初の行事としては、4月6日、7日の予定で春まつりがあり、桜の花の元で様々なイベントを開催する。 ・ 4月6日には、ミス弥富、ミス弥富金魚というミスコンテストをやり、華を添えていただく。大村知事にもお越しいただき、盛り上げていただく予定である。 ・ 4月20日、21日には、十四山地区の三ツ又池公園で芝桜まつりを開催する。昨年は中日新聞にも掲載され、県民他多くの方にご来場いただいた。今年もお誘い合わせのうえ、お越し願いたい。 ・ 本日は、生活交通ネットワーク計画策定調査の報告、来年度の事業計画及び予算案を審議していただきたい。 ・ 本日は、H24年度最後の協議会であるが、公募の方で、2年間、貴重なご意見をいただいた皆さんが、最後の協議会となる。長い間、お世話になり、この場を借りて、厚くお礼申し上げる。今後とも、いろいろな角度から、この協議会に対して、ご意見をいただければと思っている。
山崎議長	・ 事務局より、資料の確認をお願いする。
事務局 (横江)	○資料の確認 会議次第 資料1：弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査業務 報告書 資料2：平成24年度事後(自己)評価 (案) 資料3：平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画 (案) 資料4：平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算 (案)

3. 議題

(1) 弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査業務 報告書について

(2) 平成24年度事後(自己)評価 (案) について

山崎議長	・議題に入る。 ・議題 (1) と (2) について、関連する内容なので、まとめて事務局から説明をお願いする。
事務局 (横江)	・議題 (1) 弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査業務 報告書について、議題 (2) 平成 24 年度事後(自己)評価 (案) について説明させていただく。 ・関連があるということで、最初に、資料 2 の「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価」を説明させていただく。 ○資料 2 平成 24 年度事後(自己)評価 (案) 説明 ・今年度、弥富市においては、「地域公共交通確保維持改善事業」のうち、「調査事業」と「地域内フィーダー系統確保維持事業」による補助を受けている。 ・本資料の 1～3 ページが「調査事業」、4 ページ以降が「地域内フィーダー系統確保維持事業」の事後・自己評価として、指定の様式に基づいて整理している。 ・まず、「調査事業」について、1 ページ目、記載項目としては、左から事業名、調査事業の結果概要、調査事業実施の適切性、生活交通ネットワーク計画策定に向けた方針となっている。 ・「調査事業の結果概要」については、報告書の内容より各調査結果について、主な事項を抜粋して整理をしており、地域概況・公共交通利用状況等調査、住民および利用者ニーズ把握調査の結果と、それらを踏まえた課題、生活交通ネットワーク計画策定として、きんちゃんバスの改善策について記載している。 ・「調査事業実施の適切性」については、補助を申請した際の計画通り、モニタリング調査（住民アンケート、企業アンケート）やバス停乗降者数調査（OD 調査）を実施し、できる限り利用実態や住民ニーズの把握に努めており、また、協議会も今回を含めて計 4 回開催したので、適切に実施しているとし、A評価としている。 ・評価については枠の下に評価基準を記しており、A評価は事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された・されているということになっている。 ・「生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針」については、平成 25 年度、地域内フィーダー系統確保維持改善事業費国庫補助金の申請を予定しており、周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善、新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入、ニーズに即したダイヤの見直し、周知・利用促進活動の積極的展開などを検討していくこととしている。 ・2 ページ目、3 ページ目は自己評価の概要を整理したものとなっている。こちらは、先ほどの 1 ページ目を補足するような形で、少し詳細に整理したものとなっている。 ・2 ページ目には、調査事業の概要として、これまでの調査の内容などについて整理している。 ・3 ページ目には、具体的取り組みに対する評価。アピールポイント、生活交通ネットワーク計画の策定に向けた方針等について整理している。

	・アピールポイントについては、OD 調査において、調査方法を工夫し、2 週間という比較的長い期間の調査を実施でき、かつ、高い回収率を確保できたことを記載している。 ・4 ページ目からは「地域内フィーダー系統確保維持事業」の評価についてである。 ・記載項目としては、左から事業名、補助対象事業者等、事業概要、①事業実施の適切性、②目標・効果達成状況、③事業の今後の改善点となっている。 ・「①事業実施の適切性」については、補助を申請した際の計画通りに実施したのでA評価としている。 ・評価基準については、先ほどの調査事業の評価と同じで、A評価は事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された・されているということになっている。 ・「②目標・効果達成状況」については、「総合的満足度の向上」と「1 便あたり乗車人員の増加」という 2 つの目標を掲げていた。 ・「総合的満足度の向上」については、住民アンケートの結果から、「非常に良い」「やや良い」の回答が 21.6%と、昨年度の 33.3%よりも低下している。この理由としては、平成 24 年 4 月 1 日のダイヤ改正で、朝夕の減便や日曜・祝日を運休にするなどの効率化を図っており、個別の評価においても、運行便数や始発・終バス時間に対する評価の低下が大きかったことから、これらのことが要因の 1 つと考えられる。 ・また、「1 便あたり乗車人員の増加」については、全ルートで増加しているので、目標を達成している。 ・以上より、評価としては「目標を達成できていない点があった」ということでB評価としている。 ・「③事業の今後の改善点」については、先ほどの調査事業の評価の際と同じく、周辺自治体との連携による乗り継ぎ改善、新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入、ニーズに即したダイヤの見直し、周知・利用促進活動の積極的展開を挙げている。 ・また、次年度の目標としては、利用促進策について、住民アンケートでも認知度が低かったことから、これまでの目標に「サイクル&バスライドやシルバーパス、定期券等の利用促進策の認知度 50%以上」を加え、3 つの目標を掲げた。 ・5 ページ目以降は自己評価の概要を整理したものとなっている。こちらは、先ほどの 4 ページ目を補足するような形で、少し詳細に整理したものとなっている。 ・5 ページ目には、「①協議会が目指す方向性（Plan）」ということで、地域の特性や総合計画・都市マスでの位置づけについて整理している。 ・6 ページ目には、「②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス（Do）」ということで、今年度の取り組みの内容を時系列で整理している。 ・7 ページ目には、「③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価（Check）」ということで、目標に対する結果などを整理している。 ・最後の 8 ページ目には、「④自己評価から得られた課題とその対応（Action）」と「⑤アピールポイント」を整理している。 ・アピールポイントについては、無料お試し乗車券の配布による、利用のきっかけづくりについて整理している。 ・平成 24 年度事後（自己）評価（案）については、以上である。 ・続いて、弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査業務 報告書について
--	---

	て、資料 1 を基にご説明する。 ○資料 1 弥富市生活交通ネットワーク計画策定調査業務 報告書 説明 ・資料 1 の報告書については、これまでに協議会で提示させていただいた資料などを、報告書として整理したものとなっている。 ・また、この報告書は、今年度補助を受けている「地域公共交通確保維持改善事業」のうち、「調査事業」の事業報告として、国に提出することになっている。 ・なお、非常にボリュームが多くなっているので、ここでは簡単に概要を説明させていただく。 ・詳細については、お時間のある時にご覧になっていただきたい。 ・表紙をめくって頂くと、目次があるので、報告書の構成についてご説明する。 ・報告書は大きく 1～6 の 6 つの項目で構成している。 ・「1. 業務概要」では、検討の目的と流れについて整理している。 ・「2. 公共交通の現状分析」では、人口等の地域の概況のほか、利用実態調査の結果やアンケート調査の結果などについて整理させていただいている。 ・「3. 問題点・課題の整理」では、現状分析で整理した結果より、問題点と課題を整理している。 ・「4. 改善方策の検討」では、検討の方針や、周辺自治体との乗り継ぎや新たな運行方法などの検討内容について整理している。 ・「5. 公共交通の利用促進策の実施・検討」では、今年度実施した無料お試し乗車券の結果や、平成 24 年 4 月 1 日より運用を開始したサイクル&バスライド駐輪場の概要、現在実施している利用促進策として、回数券や定期券、シルバーパスの概要などのほか、今後、検討していく利用促進策について整理している。 ・「6. 今後の展開」では、基本的な考え方と、次年度の事業計画案について整理している。 ・基本的な考え方については、146 ページをご覧いただきたい。 ・考え方としては、これまで協議会を通して検討してきた事項については、今後、さらなる詳細な検討を行い、適宜、補助に必要な「生活交通ネットワーク計画」に反映していくものとしている。 ・また、これまで毎年 4 月 1 日にダイヤ改正等の改善を行ってきたが、来年度からは、補助の年度の考え方に合わせ、10 月 1 日にダイヤ改正等を行っていくものとしている。 ・平成 25 年度事業計画案については、後ほどの議題にも出てくるので、そちらで改めてご説明する。 ・以上で、議題（1）、議題（2）についての説明を終わらせていただく。
山崎議長	・資料 1、資料 2 について、事務局から説明があった。 ・資料 2 は、国からの補助金には 2 種類あり、調査により実態を把握し、現状を分析し、新たな検討をするためのものと、運行に関するものがあるが、きんちゃんバスを運行するに当たり、それらの補助金を受けるためには、このタイミングで、中間評価的なものというか、自己評価をして改善策を検討し、その報告が必要であり、その評価結果(案)である。 ・資料 1 は、調査事業に関する報告書として、厚い冊子を事務局の方でつくられたということであった。 ・ご意見、ご質問等をいただきたい。

西尾委員 (愛知運輸支局)	・ 報告書 p.114 「改善方策の検討の方針」の中で、「ニーズに即したダイヤの見直し」ということで、便名まで挙げて、かなり具体的に踏み込んだ内容になっているが、この、平日の 1～3 便、15 便、休日の 12 便の廃止というのは、年度明けて、改めて協議をいただけるという認識でよろしいか。
事務局 (伊藤)	・ それで結構である。
西尾委員 (愛知運輸支局)	・ 減便も含めたダイヤの見直しが、10 月 1 日からとなっている。補助対象期間が 10 月だからというご説明であったが、通常生活をしていく中では、年度の区切りが生活の区切りかと思うので、無理に補助対象期間に合わせることで、利用者にご不便をおかけするようなことがあると、どうかなという印象を持った。どうしてもここでやるのなら、しっかりと PR をする必要があるし、再検討していただくのもひとつの方法であると思う。
事務局 (伊藤)	・ 基本的には、H25 年度の第 1 回の協議会の中で、詰めていきたいと思っている。今のご意見も参考にしながら進めていきたい。
山崎議長	・ 改変のタイミングが、国交省の中で、基本的な今後の展開として、10 月 1 日に改正していくということをここで謳っているが、決める必要もないという気もする。 ・ 世の中では、大体 3 月末か、10 月 1 日のタイミングで、ダイヤ改正をされている場合が多い。 ・ ここに書かれているのは、「方針として」ということで、特にこのタイミングで決定ということではないということでもよろしいか。
事務局 (伊藤)	・ そのようなご理解でよろしいかと思う。
富山委員 (愛知県バス協会)	・ p.114 の「改善方策の検討と方針」ということで、「中・長期的な視点での新たな運行方法の導入検討と適切な大きさの車両導入」のところだが、これは、利用の少ないところに対してはデマンド化を図っていくということか。 ・ その方法は、全部なのか、部分的にやられるのか、あるいは時間によってはデマンドと混在するのか、また、中・長期的というのは、どのぐらいまでを目途に検討されているのか、教えていただきたい。
事務局 (伊藤)	・ ルートは、北部、東部ルートを念頭に置いた検討課題と考えている。 ・ 中・長期的というのは、具体的には出ていないが、ダイヤの改正時期を見計らいながら、ニーズを検討しながらやっていきたいと思っている。
富山委員 (愛知県バス協会)	・ 北部、東部ルート全てにおいて、一定の期間から後は、置き換えられるということで検討されているのか。
事務局 (伊藤)	・ 基本的には、試行運転が必要だと思うので、それも含め検討していきたい。
山崎議長	・ この協議会で実施した調査、運行事業であるということで、まず資料 1 の報告書を運輸局に提出していく。また資料 2 についても、自己評価結

	果として運輸局に提出することになるので、この協議会でご承認いただく必要がある。 ・細かいところの修正等はあると思うが、事務局の方で作業を進めながら、運輸局とも相談、ご指導いただきながら、修正し提出していくという形で進めていきたい。それでよろしいかどうかご審議いただきたい。 ・議事（１）（２）について、ご承認いただけるか。挙手をお願いしたい。
委員一同	（全員挙手） 《承認》
山崎議長	・今後、細かいところは、運輸支局さんと相談し、詰めていって、提出していただくということで、事務局で進めていただく。

３．議題

（３）平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について

山崎議長	・平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について、事務局から説明をお願いする。
事務局 （横江）	・議題（３）「平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について」資料 3、4 を基に説明する。 ○資料 3 平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画（案）説明 ・平成 25 年度は、国の地域公共交通確保維持改善事業という補助事業のうち、弥富市コミュニティバスの運行に関しては「地域内フィーダー系統確保維持事業」を活用し、事業を実施する予定である。 １．弥富市コミュニティバス運行 ・平成 24 年度検証結果を基に設定した新ダイヤによる運行を平成 25 年 10 月 1 日より開始する予定である。 ２．運行の検証、改善方策の検討 ・今年度と同様に、「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査により問題点・課題を抽出し、運行の検証及び改善方策の検討のための基礎資料とする。 ・また「周辺自治体の公共交通との連携」の検討や新たに「運行手法の改善」の検討を行う。 ３．利用促進策の実施 ・「改正時刻表の配布」に関しては、平成 25 年 10 月 1 日からの運行における新ルート・ダイヤに基づき作成した時刻表を、平成 25 年 9 月中旬頃に全戸配布する予定である。 ・「利用者負担軽減策の実施」に関しては、コミュニティバス利用者の金銭負担の軽減を図り、利用促進を図るため、平成 23 年 4 月 1 日から導入しているシルバーパスや定期券、回数券の販売を継続する。 ・「利用促進策の検討・実施」に関しては、コミュニティバスの利用促進を図るため、平成 23 年度から実施しているサイクル&バスライド駐輪場設置を継続する。また、その他にも「お試し乗車券配布」「利用促進イベントの実施」「市広報・HP を活用した周知活動の実施」等といった施策についても実施を検討する。 ４．生活交通ネットワーク計画の策定 ・H21 年度に策定した連携計画に掲げられた目標を達成するために、ここまでの検討結果を踏まえ生活交通ネットワーク計画を策定する。 ５．協議会の開催 ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計

	面の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを 2 ページ目に示す。協議会は計 4 回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 ○資料 4 平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案）説明 1. 歳入 ・負担金 1 億 4 百万円、国庫支出金 1,348 万 2 千円、諸収入として貯金利子、雑入で 2 千円となっており、歳入の計は 1 億 1,748 万 4 千円である。 2. 歳出 ・総務費は、会議費、事務局費などの総務管理費が 5 万円、負担金生産返納金の諸費で 1,348 万 2 千円の計 1,353 万 2 千円。 ・事業費は、バス運行事業、公共交通確保維持改善調査業務委託費としての事業推進費で 1 億 2 百万円、時刻表、路線図等印刷費、啓発物品購入費などの広報公聴費で 195 万円の計 1 億 395 万円。 ・予備費として 2 千円となっており、歳出の計は、歳入と同じ 1 億 1,748 万 4 千円である。 ・平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）については、以上である。
事務局 (伊藤)	・補足として、「運行の実施」のところで、「平成 25 年 10 月 1 日より開始する」とあるが、これはまだ決定ではなくて、10 月 1 日にダイヤ改正するというひとつの目標の中でつくった事業計画であるので、その点をご理解いただきたい。
山崎議長	・平成 25 年度の事業計画及び予算の説明であった。 ・ご質問、ご意見等はないか。
森島委員 (愛知県交通対策課)	・H25 年 10 月に予定されているのは、あくまでもダイヤの見直しということで、路線等については、今のまま継続される方向か。 ・ダイヤの改正にあたって、p.116、東部ルートと飛島公共交通バスの蟹江線の乗り継ぎについての改善策は、善太橋西、亀ヶ地のバス停での乗り継ぎの調整をやられるのが主であり、この部分のダイヤ調整に重きを置いているという理解でよろしいか。 ・飛島村、蟹江町、三重交通との調整等、差し支えない範囲で、現在の検討状況を教えていただきたい。
事務局 (伊藤)	・乗り継ぎとも関連するが、ダイヤとして善太橋西、亀ヶ地の 2 ヶ所についての乗り継ぎを便利にしたいことが 1 点と、飛島村の役場まで延ばすということも検討の中に入っている。それを含めた検討になると思う。 ・当然、飛島村等との調整も必要になってくるので、当市の部長がそちらの協議会の委員にもなっている関係もあるので、調整、こちらの説明はできるかと思っている。 ・デマンドも去年からの検討課題となっているので、路線等の変更も出てくる可能性はある。
西尾委員 (愛知運輸支局)	・予算の説明の中で、歳入の国庫補助金の項目で、「確保維持改善事業 調査事業補助金」とあるが、調査事業は、平成 25 年度は対象ではないので、削っていただいた方がいいのではないか。

事務局 (横江)	・運輸支局さんの方には、確認のため、先に資料をお送りしており、お渡しした予算(案)には誤りがあり、訂正してあるところである。
山崎委員	・各委員に配布したものは、訂正済みであるということである。
館委員 (福寿会)	・H25 年度の事業計画の中で、コミュニティバスを、「東部ルートにおける予約制(デマンド式)を検討する」とあるが、東部だけではなく、他にも、特区という形で、10 月を目途に検討はできないか。 ・先回、コミュニティバスについて、住民の意識を高めるべきというご意見を聞き、例えば自治会では総会などを必ず開催しているので、そういうところで、特区に推薦する等、住民の意識を高める方策として、インパクトのある施策ができないかと思った。
事務局 (伊藤)	・コミュニティバスにおける特区について、よく理解できておらず、返答がしにくい。ある地区を設け、その地区ごとに運行方法を検討するというところでよろしいか。 ・コミュニティバスというのは、目的等、多種多様であり、弥富市全体を網羅するという部分もある。 ・豊田市等は、旧町村の中で特別な運行をしているところもあると聞いているが、弥富に当てはめるとどのようになるか、イメージがわきづらい。 ・全体への PR という形のもので考えていく中では、各集落の自治会の総会等で説明をとという話であれば、対応はさせていただくが、特区というものについては、なかなか難しいという感想である。
山崎委員	・他の都市をみると、地域の方々が、バスが欲しいということを言いだされて、行政、市役所の職員と検討し、バスを運行するというような経緯でやられている例はいくつかある。 ・他にも、地域ごとに、地域の協議会等を設け、それぞれで公共交通の検討をしている自治体もある。 ・確かに、地域の方々が主体的に、自分たちに必要だということから入っていくというのが、望ましい姿だと思う。 ・弥富でも、そういった地域が出てくると、それに対応する形で、仕組みをつくっていくといいと思う。 ・行政が先に仕組みをつくってしまうと、何でも行政任せになってしまう。 ・デマンドの検討は、来年度 10 月を目指すのは、現況では難しい。 ・住民の方々への PR、意識を高めてもらうことが大事であるというのは、貴重なご意見なので、そういう方向で展開していけるように、事務局で進めていただきたい。
館委員 (福寿会)	・特区のイメージをお話ししておきたい。 ・例えば、福寿会の理事会があるが、字単位で構成されている。実際には、弥富市の場合は、73 地区ある。その理事会の席で、このような話をしたとすると、現状に対して危機感を持たせたり、具体的な案が出たり、協力体制も築くことができるのではないか。 ・行政だけに任せない、自分たちも参画して実施することにもつながるのではないか。
事務局	・非常に難しい。

(伊藤)	・弥富の中で、鍋田地区等、通学・通勤という限られた目的・時間で足が欲しいという話をいただいている。そういうところであったら、今のような、ある程度自主運営的な形でやっていくことも可能性としてあると思う。 ・ただ、弥富市全体で展開できるかとなると、乗合タクシーのような状況になり、車両等についてはタクシー会社との連携という方法でできるが、実行する際には、どんな問題点が発生するか、まだ予測が出来ない状況である。 ・ご意見としては、受け止めて、検討させていただきたい。
服部市長	・コミュニティバスも、今年の6月で丸3年が経過する。 ・その間、いろいろ、皆さんからご意見をいただき、改善を重ね、今がある。 ・市民の皆さまの足として、更に効率的に利用していただくためには、今のH25年度の利用計画を、もう少し具体的にしていける必要があると思う。 ・議会の方でも、一般質問もあるところであり、公共交通に関する他の自治体の事例を勉強し、弥富市に反映するべきという意見もある。 ・東部ルート DEMAND方式については、やらないと前へ進めないで、しっかりと検証し、より効率的に、なおかつ市民の皆様に利用していただく方法を、今からやっていかないといけない。
福田委員 (民生委員)	・5ページの図は何か。バスの運行もこの絵のようにしたらいいのではないかな。 ・高齢者の方等、あまりに行政が大事にすると、歩くこともしなくなり、運動不足になる。歩けない人は別だが、バス停までは歩いていただくことも大切である。 ・通勤・通学の方は、買い物や病院通いの人と利用する時間帯も違う。至れり尽くせり、全部の人を拾うルートは、時間もかかり、返って利用しにくい。 ・ある程度、過去の利用者数、利用ルートの検証により、ルートを大まかに設定し、逆に本数を増やす方が、皆さんの希望に添えるのではないかな。
事務局 (伊藤)	・家の前に停まってほしい、所要時間を短くしてほしい等、いろんな意見はある。 ・今の施策としては、サイクル&ライドという、駐輪所を設け、そこに集まっていいただいて、バスはなるべく直線的にという計画もあったが、なかなか利用率は上がらなかった。 ・弥富という面積の大きい地区での運行の難しさかと思う。 ・今のご意見は、他からもいただく意見で、ジレンマがあるが、いろいろな施策の中で改善できればと思っている。
鈴木委員 (女性の会)	・きんちゃんバスは、すごく時間がかかり、目的地へ行くのに、暇でないと行けない、忙しいと乗れないという意見を聞く。 ・以前に、DEMAND方式の成功例をテレビでやっていて、それがよかったという意見もあった。弥富にそれが合うかどうかは、やってみないと分

	からないが、市民の目は、どうしてもテレビ等のいい面ばかりに向くので、他の事例も検証して、市民に伝えていくことが必要である。 ・ルートが、やはり、あちこちに寄るという印象は強いので、どこに焦点を合わせるかが課題であると感じた。
事務局 (伊藤)	・どの世代に的を絞るかというのは、非常に難しい。 ・コミュニティバスというものに移行しながら、昔の福祉バスの環境を引きずっていると感じている。 ・デマンドについては、資料の p.124 から提示させていただいているが、これを基に、事務局で、現在検討に入っている。ご意見があれば、お聞かせ願いたい。
山崎委員	・議題（3）平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算(案)について、ご承認いただけるか。挙手をお願いします。
委員一同	(全員挙手) 《承認》
山崎委員	・この案で、来年度取り組んでいきたい。

3. 議事

(3) その他

山崎議長	・議題（3）その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (伊藤)	・H24 年度の最後の協議会である。 ・4 月から人事異動により立場が変わられる方、また公募委員の方は 2 年間の任期、お礼申し上げます。 ・新しい体制で、来年度運営する形になるが、よろしくお願いします。 ・公募委員の方から、感想でもお聞かせ願いたい。
丸山委員 (公募委員)	・高齢者に優しい住みよいまちづくりをするには、協議会のような膨大な作業も必要だし、バスの運営にあたってかなりの経費がいるということが、市民としてよくわかり、勉強になった。 ・きんちゃんバスは、高齢化に伴って、必ず重要になってくると思うので、よりよい運営がなされるよう、検討していただきたい。
喜田委員 (公募委員)	・公募委員になる前は、きんちゃんバスに対する理解はなかったが、委員になってからは、バスの乗車状況等気になるようになった。 ・自分は団塊の世代であるが、今は車を運転できても、数年後にはコミュニティバスが必要にならざるを得ない、4 人に 1 人は高齢者という時代が来ると思うので、事務局の方も大変かと思うが、ますますのご発展をお祈りしている。
山崎委員	・2 年間お疲れ様であった。 ・以上で、議題はすべて終わった。 ・全体を通して、何かご意見はあるか。
服部市長	・デマンドは、検討するということでよいのか。
事務局 (伊藤)	・検討を進め、実行するのが適切であると判断されたら、速やかに実行に移していくという考え方である。
服部市長	・そこまでの過程は、「やらなければいかん」ということでよいのか。
事務局	・検証していくという形である。

(伊藤)	
服部市長	・必ず、議会でも一般質問で出てくる。曖昧な返事はできない状況になっている。 ・市の方向性、それとこの委員会の問題と、リンクさせていかなければいけないのではないかと。 ・私が、皆さんの意見を無視して、勝手に答弁するわけにもいかない。
事務局 (伊藤)	・ひとつの手法として、デマンドという方向はあるかと思うので、検討する中で難しい問題がたくさんある。
服部市長	・そんなことは十分承知している。 ・皆さんの意見として、デマンド方式を、この委員会でも検討していくという事業計画を、H25年度に載せたという理解でよろしいかということである。
山崎委員	・私は、デマンドありきではないと思っている。 ・これまでも調査、検討をやってきているので、これからもデマンドの検討をしていくということでもいいと思う。 ・議会に出ていた話というのは、経費節減の部分が大きいと思う。
服部市長	・効率的な形の運営ということで、それだけの経費を使うんだったらそういう方式もあるんじゃないかということである。
山崎委員	・一般的には、デマンドにするということは、利便性を落とすということである。 ・デマンドのやり方もいろいろあるが、タクシーのように、軒先から軒先というものではない。 ・地域によりいろんな条件があって、いい事業者がいるかどうか大きい要素である。車両がどれだけあるか、タクシー車両を使うとすると、タクシー需要がどれだけあるか、空き車両がどれだけあるか、その空き車両を効率的に回すことにより、安い値段で事業者が請け負うというような、いろいろな条件が揃って初めて、導入が可能となる。 ・見積もりをとると、路線バスを走らせるのと大して変わらないという場合もよくある。まだ検討していく必要はある。
服部市長	・東部ルートに関しては、ルートの変更、バス停の変更等、今までやってきたが、利用者は、大きくは伸びていない。 ・利用者が伸びない状態が3年間続いてきて、違う方法を、この協議会で検討するということも、もう具体的にやらないと、我々としてはその方向性が見えてこない。H25年度はそれを協議していただきたい。
事務局 (伊藤)	・協議会の席ではお話ししていないが、現実的に、タクシー業者の方と、東部ルートに関しての経費的なものについて、見積もりをとっている状況である。
服部市長	・そういうことを、具体的な検討事項として、H25年度に挙げてもらわないと、前へ進まない。 ・H25年度の事業計画に、今日の事業策定という形の中で、皆さんにもご意見をいただいて、こういう方向にいきますよというところに、挙げていただかないと、進まないと思っている。

	・ H25年度の事業計画の中で、しっかりと、違う方向ということも検討していきたいという部分である。それが曖昧になっているのではないか。
西尾委員 (愛知運輸支局)	・ そうなってくると、先ほどの承認の挙手は何だったのかという話になる。 ・ 私は、事務局の説明を受けて、意識調査、アンケート調査の結果、今の運行方法がいいという意見の方が多いと書いてあるが、H25年度は、新たな運行方式も含めて検討を行っていくと説明をされたことに対して、手を挙げた。 ・ デマンドが本当にいいかどうかというのは当然あると思う。デマンドも含めて、新しい運行方法を検討していくことを、時期的なことは置いておいても、H25年度にやっていくということでもいいのではないか。
事務局 (伊藤)	・ 書き方として曖昧なところがあるが、当然、デマンド方式を検討するということは決定しているので、新しい運行計画、改善策の中でやっていくという形になる。
山崎委員	・ この事業計画の中で、運行方法については、このままでよろしいか。
事務局 (伊藤)	・ それで結構である。
服部市長	・ H25年度の事業計画の中には、新しい運行形態を、具体的に出してもらいたい。「新しい運行形態」というだけでは、あまりにも抽象的である。
事務局 (伊藤)	・ 事業計画（案）ということでは、ご承認いただいたと思うが、H25年度の第1回の協議会の段階で、新しい改善策についての具体的なものをお示しするという形でお願いしたい。
山崎委員	・ 来年度、第1回から、さっそく、この新しい改善策の検討に入っていくということである。 ・ 事務局から、他に連絡事項はあるか。
事務局 (横江)	・ 特にない。

4. 閉会

山崎議長	・ 以上で、第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・ 今後ともご協力をお願いする。
	以上